

『風と花と』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

富士・東部教育事務所地域教育支援スタッフでは、

- (1) 家庭、学校、地域の連携による地域ぐるみの教育活動の活性化を図る。
- (2) 地域における体験活動・ボランティア活動の環境を整備し、地域教育力の活性化を図る。

を目標に掲げ、地域の教育力を高めるためのコーディネーターとして、家庭・学校・地域社会がお互いに連携を深め、青少年の健全育成のため活動しております。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、南北の地域教育推進連絡協議会総会が書面開催となりました。議案についていずれも承認をいただいたことを報告いたします。

都留市・西桂町

「第24回 生徒の健全育成を目指す中・高連携連絡会議」



6月22日(月)、県立都留興譲館高等学校(高野修校長)において「第24回 生徒の健全育成を目指す中・高連携連絡会議」が開催されました。都留市と西桂町の中学校の校長先生方と都留興譲館高校の校長先生が一堂に会し、都留・西桂地区の「各校の現状や取り組み、都留ブロックの中・高連携教育」について情報交換と意見交換を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響による学校行事等の変更や生徒の現状、また生徒数の減少にともなう学校経営の在り方、教育改革に伴

う高校入試の状況などを中学校・高校の立場から問題提起され、課題の共有化が行われ、解決策が模索されました。11月頃には「高校入試」に関して、教頭先生・3学年主任の先生方等による話し合いが予定されています。

富士吉田地区小中高連携連絡会議

今年で13年目を迎える「富士吉田地区小中高連携連絡会議」の全体会議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から書面開催となりました。保育園・幼稚園・学校・保護者・地域住民・行政機関・各種団体が一体となった「地域教育」を推進するに際し、課題とされている「子どもたちの成長を系統的・継続的に支援するために、小学校・中学校・高等学校が密接に連携し、情報共有を図り、具体的な連携活動」を推進するという活動方針のもと、全体会議・養護教員部会・教育課題部会・授業部活動の連携等の活動が行われます。

今回は、富士吉田市立教育研修所(三浦雅彦所長)が6月に主催した「第1回養護教員部会」と「教育課題部会視察研修(ひばりが丘高等学校視察)」の2例を取り上げます。

第1回 養護教員部会

6月2日（火）には「第1回養護教員部会」が南都留教育会館にて開催されました。「保健室経営の現状」をテーマに昨今のコロナ禍への対応について、忌憚のない意見交換がなされました。また、今年度の高校への入学生に関する中学校と各高等学校との情報交換も行われました。参加者からは、「新型コロナ感染拡大防止に向けた各学校が抱える課題の共有や特色ある対応の紹介と工夫を知ることができた。富士吉田地区全体の養護教諭同士の顔合わせができ、貴重な機会であった。」という感想がありました。



視察研修：ひばりが丘高等学校

6月11日（木）に「視察研修活動」として、県立ひばりが丘高等学校（棚橋雅一校長）への視察研修が行われ、小学校・中学校の校長および富士吉田市総合教育支援員、教育研修所指導主事等の21名が参加しました。当日は、3グループに分かれて授業と校内施設の見学を行い、その後、高校から現状報告と質疑応答が行われました。

棚橋雅一校長は、「本校では、各々の特性を持った多様な生徒を受け入れており、こうした生徒が社会で生きていくための指導を心がけている。集団指導をベースに、教職員に対して指導の3K（軽くみない・隠さない・抱え込まない）を意識させ、個々の生徒の実情に則して対応をしている。」と述べています。さらに、「生徒自身が入学前に本校の現状を体験し、意識して本校での高校生活を考えてほしい。」と語っています。

参加者からは、「なかなか定時制高校の実態を観ることがないため施設設備面や学校の現状を知るよい機会となった」「社会で生きる人間育成のための教育機関としての連続性が、今後重要となってくる」との感想がありました。

ひばりが丘高等学校は、「自主自律」の校訓のもと、現在93名の生徒（昼間部普通科57名、情報経理科25名、夜間部普通科11名）が在籍しています。平成16年に富士北麓東部地域の定時制独立校として開校しました。今年度からは高等学校における通級指導の指定研究校になり「ライフスキル」（自立活動）の授業もスタートしています。今年度は新型コロナの影響で、7月16日の「創作授業」が中止となってしまいましたが、9月3日の「生活体験文発表会（現在、実施可否も含めて検討中）」や9月30日の「学校説明会（中学校教員対象）」、12月5日の「学校説明会（入学希望者対象）」を予定しています。興味のある方は、事前に学校にお問い合わせください。



都留文大前駅に新設交番誕生

令和2年7月1日（水）より、大月警察署（相模稔署長）所管の「都留文科大学前駅交番」が誕生し、運用が開始されました。9日（木）にコロナ禍の中で開所式が行われました。また、これまで谷村第一小学校前にあった上谷交番は、「都留市安全安心ステーション」として再出発します。

山田地域課長は、「上谷交番の老朽化と地域からの要望や都留文科大学周辺の人口が増加し、周辺でのトラブルの発生も増加傾向にあることから、富士急行線都留文科大学前駅に交番を新設した。都留市の玄関口の一つとして、外国人や観光客への対応も考え「KOBAN」としている。今後は、地域の皆さんの安全と安心の拠点として地元で根ざした交番にしていきたい。」と文大駅前交番の意義を述べています。交番内には来訪者スペースや受付カウンターを設置し、交番相談員を含めて8名が勤務しています。



都留文科大学前駅交番 開所式

顔・人・モノ ～富士・東部の地域教育を支援してくださっている方々～

南北都留の教育事務所が統合され、「富士・東部教育事務所」となったのは平成13年のことで、今年で20年目の節目を迎えます。地域情報紙として、南都留は「富士の光」、北都留は「明日の風」、高校は「富士の根っこ」というそれぞれの情報紙を発行していましたが、17年前の平成16年に「風と光と」へと一本化して現在に至っています。

今回は、南北の教育事務所が統合され、郡内地域の小・中・高の連携を推進し、現在の地域教育活動の基盤を作られた地域支援スタッフに当時の思い出話を語っていただき、今後の地域教育の活動の一助としていきたいと考えています。



箱根駅伝3区中村英幸さん応援（大月出身）



第1回 野球教室（鳥田中体育館）



第2回 小林雅英投手野球教室

第2回 野球教室（大月市営球場）

北都留地区「明日の風」設立当初の思い出

安藤久雄

平成13年、私は北都留と南都留の教育事務所が統合された「富士・東部教育事務所 地域教育推進担当」として異動内示をうけました。時は「平成の大合併」が叫ばれ、地域行政にとっては動乱の時代です。

赴任前まで学校現場主義の私が、行政という畑違いの場に放り込まれたわけですが、これまでの教員生活の中で培ってきた子どもを中心に保護者、学校、地域のおっちゃん・おばちゃんが育てるモデルを、行政を巻き込み、時には対決をしても北都留地域全体に広げる決意をしました。

「明日の風」と名付けた北都留地域教育推進連絡会議に行政の協力を得るために、都留市内の会議場で行われていた「四市町村合併推進協議会」に説明にいった際、都留市長から「都留市も入れてほしい。」「都留市は南都留なので、退出ください。」とのやりとりがありました。同席していた大月市長、上野原町長からは、「先生も言うなあ！ぜひ北都留で“明日の風”を早くやりましょう。」と催促される始末でした。そこで「子どもたちの未来に夢を与える活動に金を出しても、口は出さない。」「教育機関や行政機関だけでなく、商工会、森林組合、建設業界、ロータリークラブ、ライオンズクラブ他の地域みんなで見守る土壌が必要だ。」「仕事の違いは関係ない。子どものためにできることをする。」ことを第一に設立準備に取りかかり、7月上旬に溢れるばかりの会員の期待と熱気の中、設立総会を開催しました（新しいことを始める際には、障害もつきものです。行政からの指導も度々ありました……）。

「明日の風」は、2001年から始め、20年後の成果を設立当初の約束として続けてきました。まさに20年の月日が経とうとしています。（コロナ禍に遭遇して、活動の中止もあるようですが）その活動の一つに「アスリート実技講習会」と「野球教室」があります。大月市猿橋小中、都留高出身で箱根駅伝3区出場の中村英幸さんの「アスリート講習会」の関係者の皆さんと応援に行き、後で瀬古監督から声をかけられました。また、千葉ロッテから事務所に電話があり、周囲の人がびっくりしたことなど、思い出は尽きません。

コロナ禍の下、20年間に「明日の風」から巣立っていった子どもたちが、ここでの経験を糧に、次の世代に夢を与えてほしいものです。大人たちも観客でなく「参加し、提言して、地域を改革する人」でいてください。

元千葉ロッテの抑えのエース小林雅英投手は、大月市真木の出身で都留高校から日本体育大学、東京ガスを経て、98年ドラフト1位でロッテに入団。「風神」命名は、北都留地域教育推進連絡協議会である。プロ2年目(2001)から地域の野球少年たちに講演や実技指導を行う「野球教室」を開く。

5・6・7 にまけるな！ ～各地域教育団体の取り組み～

新型コロナウイルスの感染拡大防止対策によって学校教育現場も大きな影響を受けています。山梨県は、5月14日に緊急事態宣言を解除しましたが、学校の再開は県立学校では5月25日以降になっています。こうした緊急事態下の中で、各学校や教育委員会、地域行政のレベルでさまざまな取り組みが模索され、実施されています。今回は、学校再開までに取り組まれた4例を取り上げていきます。

《富士河口湖町の取り組み》

…教育センターがコーディネーターとなり、地域のCATVと連携した英語学習支援活動…

今年度から小学校5・6年で外国語が正式に教科となりましたが、富士河口湖町では外国語科の先行実施を行い、英語支援スタッフが支援してきました。今回のコロナの影響で休校中の子どもたちのために、富士河口湖町立教育センター（梶原斉所長）所属の英語支援スタッフ（八色正代、奥真理、渡辺真祐子）3名と河口湖CATVが共同で、英語学習番組を制作し、家庭で英語学習を楽しんでもらうために5月14日から第1弾を毎日2回放映しています。英語支援スタッフたちがお互いに知恵を出し合い、考案したアイデアを河口湖CATVのスタッフがプロデュースして15分程度の番組を制作しています。北富士CATVでも放映され、河口湖畔地域全体で共有されています。

取材時には、第2弾「When's your birthday?」をテーマに、英会話体操、パペット(Pamちゃん)を用いた会話、クッキー捜索探偵物語など工夫をこらしていました。勝山小の先生も登場し、子どもたちが飽きずに見ることができました。



《大月市立猿橋中学校の取り組み》

…「3密」を避ける工夫で、家庭とのキャッチボール…

5月11・12日の両日に猿橋中学校（小林智校長）では、臨時休業中の生徒への課題や家庭への書類の配布を「ドライブスルー方式」で行いました。課題や配布物をやりとりする際に3つの密（密閉・密集・密接）を避けるため、朝・昼・夕方の方の3つ時間帯を設定し、グラウンドに学年ごとの配布スペースを設けました。保護者は車で直接来校して、各学年の担当者が短時間で保護者に配布物を渡し、これまでに渡しておいた課題等の書類を回収しました。当日は保護者の理解と協力により、スムーズな受け渡しことができました。この方式をとった理由は子どもの健康を守るには、保護者の感染リスクも減らすことが大切であり、学校における保護者同士による接触を避ける意味もあったということです。

課題を配布したあとは、学級担任が各家庭に連絡をおこない、電話で生徒と話をすることで健康状態や生活の様子、課題の進み具合を確認しました。

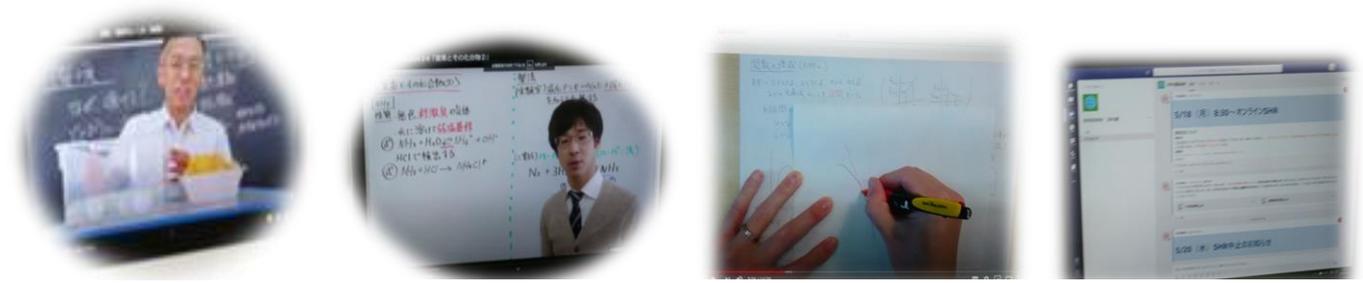


《県立吉田高等学校の取り組み》

…様々な情報ツールを活用した学校と生徒・保護者との相互連携…

今年3月の休業時期には、以前から導入していた「Classi」やHPを用いて、学校からの情報発信や生徒への学習記録の入力やコメントを通じて教員が生徒の生活の把握に努めていました。しかし休業期間が長引く中で、学習課題の配布・回収だけでなく、生徒の自主学習を補完する意味で4月20日からは「動画（YouTube）配信」を行うようになりました。吉田高校（古屋勇人校長）では以前「ICT推進委員会」が設置され、元メンバーの川久保幸大教諭が講師となって研修会を実施し、以後**986本(6/1 現在)**の動画を教員自らが作成し、生徒に提供しています。内容は、課題の解説や注意すべき点などを様々な形式で行っています（動画は、YouTubeの吉田高校チャンネル内で生徒のみが視聴可能）。

また、一人一台パソコン内のMicrosoft Teamsを活用し、オンラインSHRを5月13日からスタートしています。情報担当の小松秀幸教諭が中心となって、生徒・職員に周知し、毎朝8時30分から15分程度オンライン上で対面交流を図っています。廣瀬志保教頭は、休業中でも規則正しい生活を意識できるように、通常のSHRと同じ時間で、生徒と教員が顔を合わせることが目的のひとつであり、互いに『つながる』ことが重要であると述べています。



《丹波山村立丹波小・中学校の取り組み》

…コロナ禍を起爆剤に、行政も一体となった地域・学校・子ども・家庭の「新しい生活様式」…

丹波山村では、以前から情報教育を推進してきたが、その普及においてセキュリティーやネット環境、財政面が課題となっていました。今回のコロナ騒動で学校が休校になる中、教育委員会（野崎喜久美教育長）・小中校長らが地域の実情にあった対策を検討する中で、双方向のオンラインシステムの導入に踏み切りました。Webex Meetingsを活用する中で、子どもと教員分のiPadやインターネット環境、セキュリティー対策を教育委員会が対応し、学校では、校内研修や子ども・家庭への指導を進めていきました。

丹波小学校（樋川和之校長）は、休校中でも週2回の「家庭訪問」を行い、教員と子ども・家庭とのつながりを持ってきましたが、休校が長引く中で「子どもたちの学習保障」が必要になってきました。また、休校であっても「生活リズム」を整えることが大事であるとして、オンライン授業の各学年の時間割には、「朝の会」を導入して学校にいるような生活リズムを重視し、学校再開時にスムーズに移行できる体制をとっています。

丹波中学校（清水浩喜校長）では、教員間で「オンライン授業の手引」を共有し、短い時間の中で学習の目的や振り返りも意識した内容の絞り込みと工夫を行っています。鈴木康文教頭は、子どもの視点に合わせた動画にするため、カメラ位置や黒板に書くチョークの色、教員の顔がみえることで子どもが安心するなどの工夫を行い、事前の模擬授業において教員間の確認作業を進めたと述べています。

Webexを用いたオンライン授業の良さは、双方向性のやりとりが可能な点にあり、子どもからの発話や子ども同士の会話もできる点にあります。外出等を自粛する中で不安を抱えた子どもたちが、画面上とはいえ顔を合わせることで気が紛れたという感想もでています。「試行錯誤」で始まったオンラインではありますが、今後第2波・3波があっても、丹波山村はすぐにオンラインへの移行ができる体制が整っています。



山梨県立産業技術短期大学校 小中学生向け出張授業のご案内



令和2年度 小中学生向け出張授業一覧

教科等	内容	可能日
理科(実験)	温度を測る。(熱電対を使った測定)【小学5・6年～中学生向き】	連絡後調整
理科(実験)	3Dプリンターってなに？(3Dプリンターの仕組み説明と、デモンストレーション)【小学校高学年・中学生向き】	連絡後調整
理科(実験)	てこの原理などを器具や道具を使いながら学習する。【小学5・6年向き】	連絡後調整
理科(機械)	機械の部品のつくりかた【小学校高学年向き】	連絡後調整
理科(電気)	電気をためるコンデンサーについて実験します♪【小学校高学年向き】	連絡後調整

令和2年度 小学生向け出張ものづくり体験塾一覧

種目名	内 容	定員
工作	CDコマ	10～20名程度
工作	紙飛行機	10～20名程度
金属工作	金属の鏡面仕上げ	10～20名程度
工作	スタンプの製作	5～10名程度
電子工作	風車でLEDを光らせよう。	10名程度
電子工作	おうちでできる『あんどくん工作シリーズ①』 電子工作で『あんどくんLEDランタン』をつくらう♪	説明書を見て自分で作る 工作キット 10セット
工作	おうちでできる『あんどくん工作シリーズ②』 ペーパークラフトで『あんどくん』をつくらう♪	説明書を見て自分で作る 工作キット 30セット

産業技術短期大学校は、「ものづくりとホスピタリティ」を教育理念として、機械・電子産業、情報通信業等や観光旅行業を担う人材の育成に向けた様々な授業を行っています。

こうした授業を当校教職員が小中学校に出向き実施いたします。「ものづくり」の仕組みや面白さを伝え、小中学生のキャリア教育に役立てていただきたいと考えています。

※右表は一例です。この他にも御要望により検討させていただきます。

ツナガルサタン

従来の学校説明会にかわる
・リモートオープンキャンパス
・・・Zoom でつながる・・・

7/19、8/23、11/29

・個別見学会・・・随時

【問い合わせ先】 山梨県立産業技術短期大学校 都留キャンパス 教務学生課
Tel: 0554-43-8911 Fax: 0554-43-8919 〒402-0053 都留市上谷5-7-35

インフォメーション

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、小・中学生を対象として計画されていた活動が、中止・延期になりました。

- 「やまなし少年海洋道中」 中止
- 「親子ものづくり教室」 中止
- 「親子カルチャー教室」 中止
- 「アスリート実技講演会」 5/6、6/21 中止
- 帝京科学の夏まつり(帝京科学大学 7/19 予定) 中止
- 小学生ものづくりフェスタ (産業技術短期大学校 都留キャンパス 8/22 予定) 中止

△ 「チャレンジ! 上高アニメーション」 延期: 8月30日の上野原高校オープンスクールと同時開催

【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHP からご覧いただけます。

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/jouhoushibackn.html> 】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めてまいります。各事業についてご意見ご要望がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。

※連絡先 富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ 0554-45-7841